

## 令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学校名	静岡県立吉原工業高等学校	校長名	渡森 和彦
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署	達成状況	自己評価	関係者評価	意見
ア	安全教育の推進と危機管理能力の向上	交通マナーおよび危険予知の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒100%達成</li> <li>イエロー切符受領者各学年10人未満</li> </ul>	生徒指導部	98%の生徒が「交通法規を遵守している」と回答した。イエロー切符受領者は延べ41人であった。	A	A	イエロー切符受領者が市内で突出して少ない状況はおおいに評価できる。今後も継続的に地元企業と連携して質の高い交通安全教育を行う事で目標の達成に努めて頂きたいと思います。
		自転車通学者が主体的に車両整備に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>T Sマークに関する指導を徹底し、整備不良事故0件</li> </ul>	生徒指導部	整備不良事故は0件であった。	A	A	近隣の自動車学校にサイクルスポットがあり、工具、空気入れが無料で使える事も周知頂けたらありがたいと思います。
		自治体等、地域との連携を深め、地域安全に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災訓練への参加率90%以上。訓練不参加者へ学習機会の提供。</li> <li>「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っている」と答える生徒75%以上</li> </ul>	総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災訓練への参加率は246人中186人で、参加率75.6%。</li> <li>「連絡方法や行動について親と話し合っている」と答えた生徒77.8%。</li> </ul>	B	B	アンケートの実施時期がR5.12月という事で、この時期、R6.1月の北陸の大震災の後に調査したものであるとすると違った結果も出ていたのかもしれませんが。今回の大震災は道路の被害が際立って注目を集めている事を踏まえると、私達も連絡方法だけでなく、交通環境の想定意識というものも生徒と親、学校で話し合ったり、勉強する機会も設けておく必要があると感じました。
	予防的危機管理の実施	実習・実験等による安全管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。</li> </ul>	工業科	実習室のロッカーの固定を実施したため、実習中の事故0を達成できた。	A	A	

様式第5号

		生徒の生活面の状況を把握し、早期指導に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接週間の定期的な実施：各学期1回</li> <li>・生活アンケートの定期的な実施：各学期1回</li> </ul>	学年部	年間3回の面接週間を実施し、担任は生徒全員と面接できた。生活アンケートの実施が、早期指導につながった。	A	<b>A</b>	<p>アンケート調査の場合、回答者が自分をよく見せよう心理が働き正確な回答を得られなかったり、見落とす場合も、時としてあるので、今後もアンケート内容の工夫や対面でのコミュニケーションも大切に生徒1人1人に寄りそった指導をお願いします。</p> <p>成果の目標として、面接をやることで、<u>どのような成果が望めるか明記する</u>と思います。</p> <p>生徒とのコミュニケーションはとても大事だと思います。良い取り組みだと思います。</p>
健康指導の推進	他団体との連携を推進するとともに、健康に関する知識・能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食摂取率 95%以上</li> <li>・朝食欠食者へのセミナーの充実</li> <li>・歯磨き習慣に関する実態把握と率向上</li> <li>・健康診断結果による再検査受診率の向上</li> </ul>	保健部	保護者アンケートより朝食摂取率 92.7%で、ブラッシング講座を実施して磨き方については指導できた。健康診断の再検査率は項目にもよるが、全体的に向上した。	B	<b>B</b>		
	自己健康管理を意識させる新体力テストで男女ともに表彰を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1年間で体力が向上した」と答える生徒 90%以上</li> </ul>	保健体育科	生徒回答は「よくあてはまる 40.2%」「ややあてはまる 43.6%」で計 83.8%だったので目標には達していない。保護者の回答は計 87.8%だった。	B	<b>B</b>	外の目から見て吉原工業高校の生徒は自転車通学の生徒も多く、それだけでも体力向上に一役買っているものと思います。その中で、遅刻が少ないという事で自己管理意識も高いと思います。	
イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	不登校や学校不適応を早期把握し、支援・指導を充実させることで、生徒を救い育て卒業へ導く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立</li> <li>・ケース会議の随時開催</li> <li>・必要に応じた個別の指導計画の作成と活用</li> <li>・教職員間の情報共有強化と校内研修の開催 1回以上</li> <li>・命を守る教育への具体的な取組の検討・実施</li> </ul>	学年部 保健部	<p>スクールカウンセラーに週1回来校していただくことで、専門家の視点で助言・対応することができた。</p> <p>週1回、学年別に気になる生徒を把握し、情報の共有、生徒に合わせたケース会議の実施や個別の作成を行うことができた。</p>	B	<b>B</b>	不登校や学校に馴染む事が出来ない背景にあるものがますます見えにくい時代になってきていると思いますが、是非、情報があがってくるのを待たず、こちらから適切なタイミングもあると思います。積極的な情報の収集・共有・行動を実践願います。
		新生徒指導提要および新学習指導要領に則り、積極的に外部機関を活用することで指導を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所やNPO法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。</li> </ul>	生徒指導部・学年部 保健部	富士特別支援学校のセンター的機能、富士市若者相談窓口ココカラ、児童相談所など、必要に応じて外部機関の助力を求め、活用することができた。	A	<b>A</b>	

様式第5号

	「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等の社会変化に対応した指導の実践	教科指導と特別活動の往還により、成年年齢・選挙権年齢の引き下げに対応する。	・消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践 ・地域選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施	関係教科 生徒指導部	公民科では、契約や消費者保護に関する授業を5時間行った。また、3月には静岡県東部県民生活センターと連携した消費者教育講座及び富士市選挙管理委員会と連携した主権者教育を計画しており、外部の専門家と連携した取組を実施している。	A	A	
	新生徒指導提要以重視されている、発達支持的生徒指導を推進することで、生徒の自己決定権を尊重しながら自己指導能力を伸張し、主体的・持続的で正しい行動習慣を涵養する。	・TP0に合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。 ・多様な生徒への対応と、主体的な選択を考慮した制服の検討。	生徒指導部	代表生徒が積極的に討論をし、校則を改定することができた。  新たにスカートの導入を決定した。	A	A	校則の改定によるマイナスが生じないよう指導をして頂く一方で、これはとても素晴らしい取り組みだと大いに評価いたします。日々の学校生活の中で感じるちょっとした事からヒントを得る事が多いと思いますので、例えば生徒会と生徒をつなぐ日常“ありがとうカード”の活用。このカードを掲示ボードに貼るなど見える化をしていくとますます取り組みが身近に感じておりあがっていくのではないかと思います。	生徒の主体性を尊重した取りくみは良いと思います。
ウ	キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導	進路意識の早期定着と向上を目指し、具体的な進路指導体制を充実させることで、進路実現を支援する。	・3年間の系統的な進路指導体制を構築するため、進路教材を整備し、具体的な活用計画を定める。 ・「進路について親と話をする」と答える生徒90%以上	学年部 進路指導部	「進路行事を通して一年間で進路意識が向上した」と答えた生徒91.7%  「進路について親と話をする」と答えた生徒85.3%	A	A	進路ノートの中での保護者のコメントを求めるという案に賛成です。
	効率的な進路情報提供体制を構築する。	・就職希望者全員の求人票閲覧システムへの移行。一覧表配布廃止への検討。	進路指導部	就職希望者全員の求人票閲覧システムへの移行を実施した。一覧表は教室掲示のみに変更した。	A	A	生徒・保護者に、いつでも最新情報を届けることが出来て、利便性を向上する良い取りくみだと思います。	
	進路学力として、基礎基本の習得に加え、生徒個々で異なる進路目標を達成するための支援を充実させる。	・進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 ・大学進学希望者に関する個別検討会の定期開催(大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む)。 ・学びの基礎診断の有効活用と、前回比較でGTZ向上者20%達成およびD3取得生徒への支援	教務部・学年部 進路指導部	進学模試 数学・英語 1年次 D段階0人 3年次 D段階7人  大学進学希望者の個別検討会の定期開催は行わなかった。  学びの基礎診断 GTZ2 年生D段階変化 83人→71人 GTZ3 年生D段階変化 49人→52人	B	B	大学・専門学校への進学希望者も時代的背景から増えてくる事が予想される中で、どのようなフォローをしていくかは、特に難しい問題かと思っています。教科担当の負担にも配慮しつつという所かと思いますが、是非、ニーズにも応えて頂ければと思います。	

様式第5号

		インターンシップ、ワークラー、海外インターンシップ等、地元企業との連携を密にし、キャリア教育の充実を図る。	・「インターンシップ等をおして、進路意識が向上した」と答える生徒95%以上 ・「インターンシップ等をおした企業研究により郷土理解が深まった」と答える生徒80%以上	学年部	進路意識が向上したと答えた生徒91.7%  地元企業への理解が深まったと答えた生徒93.1%	A	<b>A</b>	“ヒナカラマチコ”との連携。昨年(R5)に続き本年は(R6)11/9を予定しています。地元、富士市を支えているJobマニアのベースを7→20に増やす予定です。昨年以上に地元企業、団体と子ども達、学生の皆さんとの交流を深める機会を提供していければと思います。  当社もいつでも協力しますので、お気軽にお声掛けください。
基本的な生活習慣の確立と職業人倫理観の向上		アフターコロナを意識した出席率の向上。時間厳守と挨拶の励行。	・毎日の登校指導の実施。 ・遅刻を各学年1日あたり1人未満に抑える。	教務部 生徒指導部	毎日登校指導を実施した。遅刻者は各学年1日あたり1人未満となった。	A	<b>A</b>	
		新学習指導要領の重要要素である「教科横断的視点の導入」および「教科指導と特別活動指導の往還」を意識し、「教科等横断MAP：SNSの正しい利用」を整備・活用することで、規範意識・人権感覚を全校・通年の体制で醸成する。	・「校則(ソーシャルメディア等を含む)や社会のルールを守ろうとしている」と答える生徒100%の達成	図書部(情報) 生徒指導部・教務部	98.5%の生徒が「校則や社会のルールを守ろうとしている」と回答した。	A	<b>A</b>	
		生徒手帳への記入習慣化等を通して、自己管理能力の伸張を図る。	・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒95%以上	学年部	「手帳を活用し、やるべきときに、やるべきことがやれた」と答えた生徒は76.7%にとどまった。	B	<b>B</b>	
エ	学習指導の充実	公開授業を充実させることで授業改善に繋げる。他教科との授業交流を行い、授業改善(教材研究)に積極的に取り組む。	・公開授業を外部へも公開 ・公開授業週間における教員相互の授業参観率95%以上 ・自主的な研究授業実施者15人以上	教務部	公開授業週間における授業参観率84.2% 自主的な研究授業実施者12人であった。	B	<b>B</b>	外部への公開を再開出来ただけでも素晴らしい一歩であったと感じます。更なる期待を込め④で良いと感じました。

様式第5号

		<p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善・学習評価改善への取組を一層進め、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答える生徒100%達成</li> <li>・「授業が分かりやすい」と答える生徒80%以上</li> </ul>	教務部	<p>「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答えた生徒92.1%。</p> <p>「授業が分かりやすい」と答えた生徒92.9%</p>	A	<b>A</b>	PTAの方が授業の分かりやすさについてとても良い評価をされていました。先生方の努力、準備の賜物でもおと思います。今後のICT活用の方法にも大いに期待をさせて頂きたいと思っています。
		<p>新学習指導要領に則った、生徒の1人1台端末の活用推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修の実施</li> <li>・アクセスポイントの増設などネットワーク環境の整備(予算措置の検討を含む)</li> </ul>	図書部(情報)	<p>生成AI活用研修を実施した。BYOD対応教室100%を達成できた。</p>	B	<b>B</b>	私立高校などでは端末の活用がかなり進んでいる様子ですが、実習を伴う授業の復習や予習について、動画などはとても大きな効果を発揮出来ると思います。
	「役立ち感育成プロジェクト」の推進	<p>地域との交流を積極的に行うことにより、コミュニケーション能力と自己有用感を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答える生徒65%以上</li> </ul>	未来戦略委員会	<p>自己評価アンケートによる「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒は42.1%(112人)。</p>	B	<b>B</b>	昨年のヒナカラマチコでは大変お世話になりました。弊社も更に地域のつながりや交流に力を入れ生徒の皆さんの役立ち感育成に貢献出来ればと思います。
オ	Society5.0を生き抜く人材育成へ向けた産業教育の推進	<p>新学科対応へ向けた実験・実習の工夫・改善を行い、生徒の学習成果の発表機会を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりに関心があると答える生徒90%以上</li> <li>・イベントや出前講座等による学習成果の発表を年間3回以上(各工業学科ごと)</li> </ul>	工業科	<p>自己評価アンケートによる「ものづくりに関心がある」と答えた生徒は89.4% 全科がイベントや出前講座等による学習成果の発表を年間3回以上達成した。</p>	A	<b>A</b>	イノベーション=技術革新ではなく、イノベーション=人々の生活を豊かにしていくコト、という視点で捉えると、ものづくりに対する見方や、取り組む視野が更に広がっていくのではないかと思います。
	高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの向上と視覚化	<p>外部指導者を積極的に活用することで、工業教育を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導者の活用を年間3回以上(各工業学科ごと)</li> </ul>	工業科	<p>企業による講座や説明会の活用は、全科合計13回実施した。</p>	A	<b>A</b>	東洋レヂン(株)とのコラボの話聞きとても素晴らしい取り組みだと感じました。
		<p>生徒の技術・技能力向上に取り組み、資格検定取得者数の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と答える生徒80%以上</li> </ul>	工業科	<p>自己評価アンケートによる「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と答える生徒72.2%</p>	B	<b>B</b>	インフルエンザ、コロナ等感染症への対応や繁忙の集中から運転免許の取得希望者が就職までに間に合わないケースがあります。もし可能であれば解禁時期を現在より早めて頂く事が出来ないか検討頂けないでしょうか。
		<p>工業高校で学んだ知識技能を外部大会で発揮する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能競技大会等へ積極的に参加し、3種目以上で上位入賞する。</li> </ul>	工業科	<p>3科がものづくり競技大会に参加した。東海大会で3位入賞した。</p>	B	<b>B</b>	
カ	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	<p>行事等を成功させ、自己有用感を育む。各専門委員会の活動を活性化させ、主体性および協調性を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答える生徒100%達成</li> </ul>	生徒指導部	<p>「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答えた生徒が91%。</p>	B	<b>B</b>	これほど素晴らしい個性や学校の特徴あふれる取り組みは見たことがありません。更に外部に発信、連携しブランド力を高めて頂きたいと思っています。

様式第5号

	部活動の活性化	部活動の活動計画に沿って、効率的効果的に活動し、参加し易い環境を整える。 生徒による応援活動により愛校心を育て、選手の自己有用感の醸成を図る。	・「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒 85%以上 ・部活動壮行会の定期的な開催	生徒指導部	84.6%の生徒が「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と回答した。 活躍している部活動に対し、その都度壮行会を行った。	A	A	榛葉先生のご冥福を心よりお祈りいたします。先生と剣道部の生徒との絆や周囲の様子を拝見させて頂いており、涙が止まりませんでした。時代の変化により部活動の意義が薄くなりつつある中で改めて考えさせられた出来事でした。生徒全体で新しい部活の設立などの話があれば積極的に応援してあげてほしいと思います。
	読書活動を通じた知性・創造力の育成	本に親しむ習慣を身に付けさせるとともに図書館活用の促進を図る。	・図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加 ・「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒 80%以上 ・「図書館やPTAコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒 70%以上	図書部	図書だよりは月に1回発行できた。貸出数はパソコンが壊れたため統計が取れなかった。 「朝読書は有意義」「本を読んだ」と答えた生徒は、ともに68.8%だった。	B	B	
キ	学校公開・情報発信の充実	地域や保護者が学校を見学する機会を充実させる。	・新たに公開する学校行事を2つ以上設ける。	生徒指導部 教務部	新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、「吉峰祭」を外部に公開し、「オープンスクール」を再開した。	A	A	高校入学前の子ども達や親御様などをターゲットにタネをまく事がとても重要だと思います。キッチンカーなどを定期的に昼食の時間帯に呼ぶと敷居が意外と低くなり、地域の方々も親近感を覚えると聞いたことがあります。
		工業高校の魅力を見直し、積極的に広報する。	・新しい学校広報のあり方を1つ以上検討し、実現を目指す。	未来戦略委員会	夏季休業期間中に、「1年生による母校訪問」を実施した。卒業生のない富士・富士宮地区の中学校は管理職が訪問して広報活動を行った。	A	A	企業で活躍している卒業生に講話を依頼し、聴講者も生徒や教員だけでなく、父兄や地元中学校の関係者や入学前の生徒を招待するなどはどうでしょうか？  このような取り組みは企業も良くやっています。知名度向上、自己アピールにも効果的ですし、訪問する側も、自分の学校の良さを再認識できて良いと思います。
		公式ホームページや公式SNSを活用した学校広報活動を推進する。	・公式ホームページ閲覧回数平均 4500 以上 ・公式SNSフォロワー800 以上	図書部(情報)	サーバセキュリティの強化に伴い、アクセスカウンターを撤去したため集計できなかった。 フォロワー(2024.1 現在) : X(旧 twitter) : 280 Instagram : 838	B	B	学校生活の日常を本当にこまめにアップしていたと思います。この1年間、とても身近に感じました。
ク	自律的で信頼される学校事務の推進	法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	・監査での文書指摘事項をゼロにする。	事務部	監査での指摘はなかった。	A	A	日頃の連携、工夫が素晴らしいと思います。

様式第5号

		教職員と連携した施設設備の安全点検を実施し、計画的に改善への取組を行い、安心安全な教育環境の整備を行う。	・「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、保護者ともに90%以上	事務部	「施設や設備は安全が保たれている」と答えた生徒は89.8%、保護者は87.7%であった。	B	<b>B</b>	
ケ	働き方改革に向けた業務改善	定時退勤に向けた目標を立て、取り組む。	・「定時退勤週間に定時退勤できた」と答える教職員が95%以上	管理職	毎月「定時退勤できた」か、「定時退勤できなかった」かを調査した。「定時退勤できた」と96.8%が答えた月（7月）と、78.3%しか答えなかった月（6月）があり、11月まで平均して90.3%の教職員が「定時退勤できた」と答えた。	B	<b>B</b>	管理職への負担というのは、企業も同じですが、年々重くなってきているように感じます。若い職員が管理職を目指すような体制づくりというのは一筋縄ではいかないかもしれませんが、次の世代を育てていく意味では、待ったなしなのだろうと推察致します。管理職のメンタルヘルスにも気を配っていく必要があると思いました。（時代的にも）本当にご苦勞様です。
		部活動の活動計画に基づいた実施に努めるように働きかける。	・「部活動の活動計画に基づき活動できた」と答える教職員が90%以上	管理職	「今年度、部活動の活動計画に基づき活動できたか」という問いに「できた」と答えた教職員は100%であった。	A	<b>A</b>	